

令和元年5月13日

各 位

八 戸 市 医 師 会
臨 床 検 査 セ ン タ ー

お 知 ら せ

平素、当検査センターをご利用いただきありがとうございます。

外注先（**SRL**）より下記検査項目につきまして、試薬製造元における原料調達に遅延が発生しており、試薬供給が一時停止し、検査受託を一時中止にさせていただきたいとの連絡がありましたのでお知らせいたします。

記

* SRL

検査受託一時中止項目

最終受託日…令和元年5月14日（火）受付分まで

検 査 項 目	備 考
特異的IgE(シグナルアレルゲン) [FEIA法] ハウスダスト2	原料調達遅延による一時製造停止のため

※検査再開の時期につきましては、改めてご案内させていただきます。

本項目とハウスダスト1の違いについては、資料をご参照下さい。

【ハウスダストに関するFAQ】

Q1. ハウスダストの主要なアレルゲンは何ですか？

ハウスダストに含まれる主要なアレルゲンはチリダニ、動物のフケ、昆虫類(ゴキブリなど)、真菌・細菌などの微生物、花粉などと報告されています¹⁾。
ハウスダストは単一なアレルゲンではなく多くのアレルゲンの混合物であり、採取場所などによって含まれるアレルゲンにバラツキがあるとされています。

Q2. ハウスダスト1(h1)とハウスダスト2(h2)の違いは何ですか？

原料の供給元(製造メーカー)が異なります。h1は Stallergenes Greer 社(旧社名: Greer Laboratories 社)、h2は HollisterStier Allergy 社(旧社名: Hollister-Stier Laboratories 社)から供給された原料(エキス)を用いて製造しています。

Q3. ハウスダスト2(h2)の代替項目としてハウスダスト1(h1)を用いても大丈夫ですか？

鼻アレルギー患者を対象としたh1とh2の比較研究で、全体的な両者の相関は良好であることが報告されています(図1)。また、h1はh2よりも若干陽性率が高いとの報告もあり(図2)、h1はh2よりも見落としの少ない項目であると考えられます。このことから、h2の代替項目としてh1を用いることは可能と考えられます。

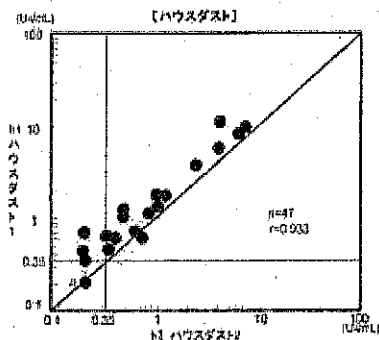


図1)ハウスダストh1とh2の相関²⁾

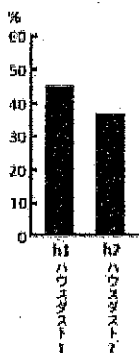


図2)ハウスダストの陽性率²⁾

また、両者の相関が良好であることより(図1)、h1とh2に含まれるアレルゲンの種類や量に多少の違いはあるものの、その構成は大きく変わらないことが推測されます。したがって、アレルゲンの観点からもh2の代替項目としてh1を使用することは可能と考えます。

1) 秋山一男, 福高友馬, ハウスダストの構成アレルゲン, アレルギー・免疫, 20(3), 2013, p418-425

2) 馬場駿吉, 講演5 キャップシステムの臨床評価-アレルギー性鼻炎患者における検討-ファルマシアキャップセミナー集, 37-44, 1990のスライド16および17から抜粋

以上